

第1回長野市まちづくり研究会 意見交換概要

日 時	令和8年1月 30 日(金)午前 10 時 30 分～午後 12 時07分
会 場	長野市役所第一庁舎5階庁議室
出席者	委員7名(委員1名欠席)、関係者、事務局
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 座長挨拶</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 説明 長野駅を中心とした概ね2km 圏域における現状と課題</p> <p>5 意見交換【非公開】</p> <p>6 閉会</p>
議 事	<p>【意見交換における発言要旨】</p> <p>▶森記念財団の都市戦略研究所が行っている都市力調査において、長野市は136 都市中 17 位に位置している。分野ごとに指数化されており、長野市の特徴として、環境分野が最も高い 11 位、生活居住分野が 17 位、文化交流分野が 26 位である一方、少し課題がある分野が、経済ビジネス 33 位、交通アクセス 55 位、研究開発 60 位であった。</p> <p>▶データ上からは、空き家が多いこと、若手人材の流出、新規設立法人登記割合の低さなど、活力という意味において課題があることが読み取れる。一方で高齢者就業率や健康寿命は1位であり、長野市の強みをどう活かすのか、弱点をどう補強していくか、大きな目線で考えながら進めて行くことが重要と考える。</p> <p>▶転出超過を改善する手立ての一つとして、若い世代が戻ってきやすい、住みやすい、そしてさらに望むなら、戻ってきた人が市内で商売をしている、担い手となってくれるような、そういう思考を持った方が住みやすい住宅の供給が鍵ではないかと感じる。</p> <p>▶街中の住宅マンションは傾向として高額であり、若者からすると購入できないため、そうではない低廉な、新築やピカピカでなくてもいいけど、この街中で商売をやってみようという方が住んでもらえるような住宅の供給の仕方を研究してみても面白いと思う。</p> <p>▶長野市はリノベーションの先進地であり、下地はあるので、そういう皆さんがどういうところにお住まいになって起業されているのか、お店を始められたのかというようなことも、今後、長野駅周辺の魅力を高めて、街も居住も含めて両方高めていくということの仕組み、制度を考えていくべきではないかを感じる。</p>

- ▶長野市には善光寺という強力なコンテンツがあり、そこに至るまでの駅からの軸線がはっきりしているのが特徴である。表参道という軸線をどう活かしていくかが重要だが、実際住んでみて思うのは、その軸線に張り付いているショッブ、建物はしっかりしているけれども、一步裏に回るとかなり駐車場が多く賑わいに乏しいと感じる。街中に広がりができてくると、中心市街地が楽しくなってくるのだと思う。
- ▶中心市街地でしか買えないものあれば別だが、商業で人を引っ張ってくるのは難しいとすると、例えば美術館、図書館、映画館のような文化的なものとか、スポーツやコンサートなどが考えられる。中央通り沿いや駅前広場で結構イベントが行われており、これをもっと外に打ち出してみんなで賑わいをつくってもいいのかなと感じる。
- ▶長野は朝が早くて夜が早いと感じる。夕方になると閉まっている店が結構あり旅行者の行き場がない状況も見受けられる。ナイトタイムをもう少し充実させるような方向もあるのではないか。そのためにも二次交通の充実や自動運転バスの導入などの検討が必要ではないか。
- ▶長野駅の周りも含めた広い範囲で、どのような機能を提供するのか、特に東口のインバウンドの方が多く集まっているところについて、何らかの手立てが打てないか、皆さんと考えていく必要があると思っている。
- ▶バス、タクシーのドライバーが不足しており、人件費を上げないと確保できず、採算がとれない状態。乗降人員が増えない中、運賃を値上げするとさらに乗降人員が減るという負のスパイラルの状況となっている。
- ▶善光寺は、住む方にとって重要な場所であり、日本人が訪れる場所とすれば良いお寺だと感じている。逆に、インバウンドの中には必ずしもお寺に興味を感じていない人もいるようである。
- ▶長野駅は綺麗だが、駅前にペDESTリアンデッキがなく県庁所在地としては寂しさを感じる。また、駅前にファーストフード店や牛丼屋がないのは県庁所在地としては珍しく不思議に感じる。
- ▶マンションについて、街中の新築マンションは高額な設定となると思われるが、東京と比べればかなり安くなると思う。セカンドハウスや自宅として、長野から東京まで新幹線で1時間20分程度で行けるので、通勤圏として成立する都市だと思う。
- ▶長野駅周辺は訪れるにも良いし、住むのも魅力的な場所だと感じる。建物も表を見れば綺麗なところもあるが、当然老朽化したものもある。建築コストの高い時期であり難しいと思うが、善光寺に向かって歩いていく道の左右に、そういうものがあれば、人が自ずと訪れるのではないかとと思う。
- ▶小布施町は、街全体でまちづくりに注力し、歩いて気持ち良い街として人が集まるようになった。まちづくりは地元の方が真剣に考えないと進まないと感じ

た。

- ▶今後、あらゆる産業において人手不足の状態となり、稼ぐ場所、働く場所があることが大事になる。生産年齢人口が減っていく中で、若者や女性を含め、長野に定着する、ここで暮らそうと思えるような魅力ある都市にしなければならない。
- ▶長野市は魅力があるが、周辺の市町村に暮らしている方々にとってはモビリティの問題がある。中心部へのアクセスと、魅力ある中心部をつかって、そこでの過ごし方、もっと歩いてもらうとか、こういったまちづくりの革新というところには、そのバックグラウンドを大きい目線から中心部というものを捉えていく必要があり、未来志向でどう変えていくかということが重要だと思う。
- ▶若者、特に女性が住み続けたいという街としての機能が、この長野市中核に存在するのか。また、今後、高齢者人口が増えていく中で、中高年も楽しめる賑わいのある中心市街地にするにはどのような機能があれば良いのか。さらには幅広い世代の人々が集まる交流の場とするにはどうしたら良いのか。それぞれの視点で分析が必要と考える。
- ▶アクセス性の優れた長野ということを生かして、北陸と首都圏とを結ぶ中継地点としての機能をどういう形でつくれるのか、中継地点としての機能を強化するとしたら、どういうことが考えられるのか分析が必要と考える。
- ▶インバウンドの受け入れ環境と稼ぐ力の強化として、外国人が何を見ているのかということ进行分析してみることも必要と考える。
- ▶上空から研究対象エリアである2km 圏内の写真を撮ると半分が駐車場となっている。そして、その半分ある駐車場の8割が専用駐車場と言われている。今後、人口構成が変わってきた場合、この土地は使えるチャンスが出てくると思う。

- ▶中心市街地のまちづくりは地区毎に動いており、全体的に一枚岩でないと進まないため、行政が勇気を出さないと動かないと思う。
- ▶大学に通うため長野を離れた若者が戻ってこない要因として、長野の企業が認知されていないと思われる。長野市は自然など魅力のある街だと認識はしているが、就職という視点で考える場合に長野の企業を知らないため選択肢から外れてしまう。もっと長野の企業を知ってもらう努力、企業は若者へのアピールの方法を工夫する必要がある。
- ▶交通について、インバウンドが街中で消費する状況を作り出すためにも、バスターミナルまで歩いてもらい、その沿道に魅力あるお店を配置して消費を促しても良いかと思う。
- ▶様々な地域の問題をブラッシュアップしていく中で、すぐに実行するのは難しいと思うが、「もんぜんぱら座」についてもっと魅力を高める必要がある。

	<ul style="list-style-type: none">▶まちづくりは、50年後を視野に入れ、どういう暮らしぶり、仕事ぶりで行っていかうかを描く必要がある。▶長野県は森林県であり、長野市も2/3が森林面積だが、あまり手が入っていないと聞いており、長野市の後背地である林業の活性化、森林循環という形でうまく長野市のまちづくりを組み合わせる必要があるのではないか。▶次の木造建築を、しっかり善光寺軸を中心に作り上げていく。この森林というものを大事な財産として、新たな光を当てることによるまちづくり、もしくは林業を長野県の産業の新たな軸として、世界への輸出までもって行けるような、日本もしくは世界のリーディング都市として位置付けていく可能性もあるのではないかと思う。 ▶多様なご意見をいただいたので、研究テーマ、調査テーマについては事務局で預らせていただき、皆さまと相談させていただきたい。▶当研究会の専門部会として、実務者レベルのメンバーにより、本日の意見を踏まえた検討を行いたい。専門部会のメンバーについては、各委員から推薦いただいた方のほか、オブザーバーとしてメンバー以外も参加できるような形で開催したい。
--	---